



財団法人 地域創造

平成25年度
公共ホール演劇ネットワーク事業
報告書

『ながぐつをはいたねこ』

助成事業

一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会

目次

目次	1
はじめに	3
事業概要	4
事業の流れ	6
全体研修会	8
事業経費	9
公演概要	10
ワークショップ・舞台写真	11
実施データ	
ひたちなか	12
妙高	14
金沢	16
大垣	18
三重	20
長久手	22
佐世保	24
中屋敷法仁インタビュー	26
学校アンケートより	28

財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との密接な連携のもと、全国の地方公共団体や関連の公益法人などが実施する文化・芸術活動に対して財政的な支援を行うほか、財団の自主事業として、研修交流事業、公立文化施設活性化推進、調査研究等などの事業に取り組んでいます。

これらの事業の一環として「公共ホール演劇ネットワーク事業」を実施しています。これは、アーティストが各地域に約1週間滞在し、上質な演劇公演と、演劇の手法を活用した地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び一般向けのワークショップ）を実施することにより、観客の創出・育成や子どもたちのコミュニケーション能力・想像力・創造力の向上をサポートする事業です。

平成25年度は、劇団柿喰う客による『ながぐつをはいたねこ』（脚色・演出：中屋敷法仁）の上演と、中屋敷氏と俳優によるアウトリーチ活動をひたちなか市文化会館（茨城県ひたちなか市）、妙高市文化ホール（新潟県妙高市）、金沢市民芸術村（石川県金沢市）、大垣市スイトピアセンター（岐阜県大垣市）、三重県文化会館（三重県）、長久手市文化の家（愛知県長久手市）、アルカスSASEBO（長崎県佐世保市）の7地域で実施しました。アウトリーチ先の小学校では、積極的にアイデアを出し合い、一方でまわりの意見には耳を傾け、クラスメートと協力しながら楽しんでプログラムに取り組む子どもたちの姿が見られました。

この報告書は、「平成25年度公共ホール演劇ネットワーク事業」において実施した事業内容をまとめたものです。本事業の成果が活かされ、地域のホールが創造的な活動の場となり、ネットワークの形成が活発に行われるようになることを願っております。また、この報告書が地域の公立文化施設の職員や地方公共団体の芸術文化担当者の参考となり、微力ながら公共ホールの運営に役立てられれば幸いです。

結びに、貴重な財源を拠出していただきました一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会をはじめ、本事業の実施にあたりご協力を賜りました全ての関係者の方々に心から厚くお礼申し上げます。

平成26年3月
財団法人地域創造

1 趣旨

財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化、情報発信能力の向上を図るとともに、地域の演劇分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、複数の地方公共団体等が演劇公演及び演劇の手法を活用した地域交流プログラム（アウトリーチ等）を共同・連携して実施することを支援する。

2 対象団体

演劇事業の実施に関心があり、今後も演劇事業に積極的に取り組む意欲を持っている下記の団体を対象とする。

- ①地方公共団体
- ②地方自治法第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- ③地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設立された、公益法人制度改革三法※による特例民法法人、公益財団法人等（②を除く。）のうち、地方公共団体が基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めたもの
 - ※「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」

3 事業内容

当事業の各参加団体は次の事業を実施する。なお、（1）地域交流プログラムと（2）演劇公演は、連続した日程ではなく、それぞれ別日程で実施する。（各開催地の公演は、原則として平日を含めた連続公演とすること。）

（1）地域交流プログラム

- ①学校等でのアウトリーチ
学校（小・中・高校）等で演劇の手法を活用したアウトリーチを原則 1 回 90 分とし、最低 3 回（270 分）実施する。
- ②公募によるワークショップ
演劇公演を実施する施設内又はその他ワークショップを実施するにあたり適当な施設を会場とし、公募による演劇の手法を活用したワークショップを最低 1 回（120 分）実施する。

（2）演劇公演

当該参加団体のある都道府県または市町村内の公立文化施設、その他公演事業を実施するにあたり適当な施設を会場とし、演劇公演（再演作品）を実施する。

なお、公演は原則として有料とし、入場料収入は、開催地の主催団体に各々帰属するものとする。

※平成 25 年度は各参加団体と公演団体のスケジュールの都合により、地域交流プログラムと演劇公演を各開催地にて概ね 1 週間程度の連続した日程で実施した。

※この事業の地域交流プログラムとは

- ・学校等のアウトリーチでは、演劇のワークショップ等の手法により、子どもたちが自分自身や他者、社会に対する理解を深め、生き方や社会の問題について考えるきっかけをつくるほか、自己表現力やコミュニケーション能力を伸ばすことで子どもたちの人間形成をサポートします。
- ・一般の方を対象にしたワークショップ等では、演劇を通して生きがいを見いだすきっかけや社会参加の場を提供し新たな地域づくりをサポートします。またこのように演劇に触れる機会を増やし、観客の創出と育成を行います。
- ・地域で活動する表現者とプロの演劇人と交流する場を設け、地域の表現者の意識の向上を図ります。

4 事業実施体制の整備等

(1) 実施体制の整備

参加団体は、参加団体間で協議のうえ、代表となる団体を1団体決定するとともに、事業に最も適した組織づくりを行う。

なお、下記5(1)の地域創造からの助成金は、原則として代表団体、参加団体で構成される実行委員会またはネットワーク事務局に対して交付する。

また、事業にかかる経費のうち、地域創造からの助成金を除いた部分の負担の配分については、参加団体間の協議事項となる。

(2) 合意書の締結

参加団体は、参加団体間で協議のうえ、本事業実施のために必要な事項（(1)の実施体制に関するものも含む。）を定めた「合意書」を締結する。

(3) 代表団体の役割

代表団体は、(2)の合意書締結のとりまとめのほか、ネットワーク事業に必要な会議の開催や収支管理、事業報告及び決算報告を行うこと。

5 地域創造の支援措置

(1) 地域交流プログラム及び公演事業等に対する助成

地域創造は、地域交流プログラム事業及び公演事業にかかる費用（ホール使用料、現地宣伝費、上演に係る著作権料、現地増員人件費などの現地経費は対象外とする。）の3分の2を助成する。

ただし、助成金は、1,500万円を上限とする。

(2) 準備年度中にかかる費用の負担

地域創造は事業実施のため、全体研修会等に要する経費で地域創造が認めるものについて、100万円を上限として負担する。

6 損害賠償の免責等

参加団体は不測の事態により事業を中止した場合等の損害の補填として損害保険等に加入すること。また、事業の実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

7 公演クレジット

次のクレジットを基本とする。

主催：開催地の主催団体

公共ホール演劇ネットワーク事業参加団体：参加の地方公共団体

助成：一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会、(財)地域創造、公共ホール演劇ネットワーク事業

8 その他

地域創造は、助成金の支払い等の審査にあたって必要な書類を求めることができる。

事業の流れ

時期／区分	フ ロ ー 図
平成23年12月	公共ホール等から地域交流プログラム及び演劇公演についての提案を募集 ・11/25 発行地域創造レター 12月号にて周知（全国）
平成24年1月	↓ 募集締切（1月25日）
2月	↓ 提案希望団体のヒアリング
3月	↓ 事業説明会及び演劇セミナー開催案内／事業参加団体募集 ・2/25 発行地域創造レター3月号にて周知（全国） 参加申込締切（3月23日）
4月	↓ 事業説明会・プレゼンテーション及びセミナー開催（4月17日、18日）
5月	↓ 参加意向の提出
6月	↓ 事業参加団体の決定
8月	↓ 企画準備会議の開催（8月27日）
11月	↓ 全体研修会の開催（11月27日、28日）
平成25年4月	↓ 合意書の締結
5月～	↓ 制作会議の開催
7月～	↓ 現地下見を実施（ホール下見、アウトリーチ先の下見）
9月～11月	↓ 地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ、一般のワークショップ）、演劇公演の実施
平成26年2月	↓ 決算報告会議（2月4日）
	↓ ネットワーク事務局から実績報告書提出・助成金の確定交付
	↓ 事業報告書作成・配布
3月	↓ 一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会へ実績報告書提出

●前年度の企画準備会議

上演作品、参加団体決定後に各参加団体から担当者が集まり、事業の全体像、予算の考え方、アウトリーチの目的、進行スケジュールなどについて協議を行う会議です。この事業は、約2年間同じ参加団体で協働する事業になるため顔合わせの意味も含め、各ホールを取り巻く環境についても情報交換を行います。

●当年度の制作会議

当年度に入り、合意した全体予算を踏まえ公演に向けての広報（チラシやポスターの方向性）、仕込みについて、具体的なアウトリーチ先、下見のスケジュールなど詳細な部分を協議します。全参加団体の事業が終了し決算の見通しが立った段階で、決算報告の会議を行います。前年度の協議から事業終了に至るプロセスについて再検証をします。

●全体研修会

前年度に1泊2日の研修会を行います。この研修会はアウトリーチについての共通認識を全参加ホールで共有し、各ホールの担当者に学校で行うアウトリーチプログラムを実際に受講してもらいます。実際に体験しプログラム内容について直接表現者と話をすることで学校への説明に説得力が増します。この体験を踏まえ、各ホールがどのような地域性にあり、今回のアウトリーチの目標をどのように考えているかを表現者も交えて協議します。他ホールの状況や課題を知ることで自分のホールの参考になるというケースも少なくありません。

●アウトリーチ先の下見

当年度のアウトリーチ先の学校下見は、各ホールの担当者、アウトリーチの講師となる表現者、地域創造の3者（場合によってはツアーマネージャーが同行）で行います。下見の進行はホール担当者が行います。アウトリーチを行う会場は、必ず学校のいろいろな教室を見学してから決定します。通常の教室以外の多目的教室が充実している学校が多く、プログラムに適した部屋を使用するケースが多くあります。可能な限り担任の先生に同席していただき、クラスの様子を聞き、プログラム内容を説明します。下見の大きな役割は、アウトリーチを受ける側（学校）と行う側（表現者）の信頼関係を築く場と考えています。演劇の手法を使ったプログラムと一言言っても生徒の前でお芝居をするとは限りません。お互いのイメージの共有化を図る機会にし、本番当日への不安を取り除くことが目的となります。

全体研修会

会場：三重県文化会館

平成 24 年 11 月 27 日 (火)		11 月 28 日 (水)
10:00		10:00 ~ 12:00 ワークショップの振り返り 具体的なプログラムについて 体験したワークショップについて振り返りを行う。 あわせて各参加ホールから具体的なアウトリーチ（一般公募ワークショップも含む）のプランを出し合い、全体で協議する。
11:00		
12:00		12:00 ~ 13:30 昼食
13:00		
14:00	14:00 ~ 15:00 挨拶・参加者自己紹介・作品紹介 上演作品「ながぐつをはいたねこ」について、演出家中屋敷法仁氏から紹介。	13:30 ~ 14:30 今後のスケジュールについて ホールや下見の際の注意事項を踏まえ、今後のスケジュールを確認する。
15:00	15:00 ~ 17:00 作品についての意見交換 上演作品についての企画の目的や経緯を三重県文化会館から説明。ディスカッションを通して作品への理解を深める。あわせて、会場や公演回数、チケット料金や広報活動、予算について参加者間で意見交換する。	
16:00		
17:00	17:00 ~ 19:00 模擬ワークショップ 演出家中屋敷法仁氏によるワークショップを参加ホールの担当者が体験する	
18:00		
19:00	19:00 ~ 交流会（自由参加、会費制）	

事業経費

費目	金額	摘要
文芸費	1,841,000	脚色料／演出料／作曲料／舞台監督料／照明・音響プラン料
出演料	1,732,500	出演料
舞台費	2,298,356	大小道具費／衣裳費／照明・音響スタッフ費／機材費／運搬費
公演費	3,614,073	交通費／宿泊費／日当／公演雑費
制作費等	1,131,872	宣伝美術費／ツアー制作人件費／制作雑費／公演保険料
現地下見経費	334,170	現地下見交通費／現地下見宿泊費／日当
ネットワーク費	410,520	制作会議経費
アウトリーチ経費	1,911,000	講師料／アシスタント料
合計	13,273,491	
参加館負担金（合計）	4,424,497	
ひたちなか	587,071	（1ステージ）
妙高	665,821	（2ステージ）
金沢	665,821	（2ステージ）
大垣	587,071	（1ステージ）
三重	665,821	（2ステージ）
長久手	665,821	（2ステージ）
佐世保	587,071	（1ステージ）
地域創造助成金	8,848,994	（対象経費の2/3、上限1500万円）

柿喰う客 こどもと観る演劇プロジェクト 2013

『ながぐつをはいたねこ』公演概要

【原 作】	シャルル・ペロー
【脚色・演出】	中屋敷法仁
【出 演】	深谷由梨香、永島敬三、大村わたる、葉丸あすか、板橋駿谷
【美 術】	原田愛
【照 明】	松本大介
【音 響】	上野雅
【音 楽】	佐藤こうじ
【舞台監督】	川除学
【宣伝美術】	山下浩介
【映像撮影】	竹崎博人
【 W E B 】	問屋口克
【ツアー制作】	斎藤努
【制 作】	ひたちなか公演／吉村勝則、水谷隆仁（ひたちなか市文化会館） 妙高公演／大野雅季（妙高市文化ホール） 金沢公演／桶田奈美子、長井珠子、井口時次郎（金沢市民芸術村） 大垣公演／高橋博子（大垣市スイトピアセンター） 三重公演／松浦茂之、今井香菜（三重県文化会館） 長久手公演／遠藤健一 神藤貴司（長久手市文化の家） 佐世保公演／田上佐和子（アルカス SASEBO）

【物 語】

ずっとずっと昔、ずっとずっと遠くの国でのお話です。
働き者の「粉ひきおじさん」には三人の子供がいました。
一番下の弟は「カラバ」という名前で、とても心の優しい少年でした。
そんな粉ひきの家には、一匹の「ねこ」がいました。
名前はありません。
この「ねこ」は、とてもとても頭のいいねこでした。
「長靴をはいた猫」は、ヨーロッパに古くから伝わる民話のひとつです。
かしこい猫が大活躍するこの物語は、時代や国によって様々にかたちを変え、
世界中で、多くの人々によって語り継がれてきました。
柿喰う客による「ながぐつをはいたねこ」は、フランスの作家シャルル・ペローによって著されたものを
原典とし、いろいろな地域の「長靴をはいた猫」からアイデアを取り、そこに新解釈を加えたものです。

ワークショップ・舞台写真



実施データ（ひたちなか）

実施団体	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
実施ホール	ひたちなか市文化会館
担当者	吉村勝則 水谷隆仁
公演（公演日、開演時間、入場料金、動員数）	
公演日時：9月29日（日） 16：00 開演	
入場料金：一般 2,000 円（友の会 1,900 円）／3才～高校生 500 円／親子ペア券 2,300 円（友の会 2,200 円）	
チケット販売数 388 枚（完売）／入場者数 381 人	
アウトリーチ（実施日、学校名、対象学年、参加人数、時間、会場）	
実施日：9月24日（火）・25日（水） ひたちなか市立津田小学校・5年生	
・アウトリーチ① 5年1組 39名 24日 13：55～15：30（工作室）	
・アウトリーチ② 5年2組 38名 25日 10：45～12：20（工作室）	
・アウトリーチ③ 5年3組 39名 25日 13：55～15：30（工作室）	
一般ワークショップ（実施日、対象者、参加人数、時間、会場）	
実施日：9月28日（土） 表現者（高校生以上）対象 26名参加 16：00～18：00	
ひたちなか市文化会館 大会議室	

下見・アウトリーチ・公演スケジュール

	7月18日 下見	9月24日 実施期間	25日	26日	27日	28日	29日
9：00	移動	移動	移動		仕込み	仕込み他	準備
10：00	ホール下見	↓	②津田小	稽古			ゲネ・リハ
11：00	↓	↓	5年2組		搬入		↓
12：00	打合せ	打合せ	給食交流			↓	↓
13：00	↓	①津田小	③津田小			舞台稽古	公開リハ
14：00	↓	5年1組	5年3組				
15：00	学校下見	↓	↓				開場
16：00	↓					一般 WS	公演
17：00	帰京				↓	↓	ばらし
18：00	↓			↓	舞台稽古	↓	↓
19：00						公開リハ	↓
20：00							順次帰京
21：00					↓		↓
22：00							↓

●この事業への参加理由

本事業を通して他のホールと共同・連携によるノウハウの共有と蓄積がなされ、企画、制作能力の向上を図ることを目的とできること。作品のコンセプトからは新たな演劇ファンの獲得を目指せる事業となることを期待して参加いたしました。

●地域交流プログラム事業のねらいと成果

ホールが地域コーディネーターとしての役割を果たすとともに、プロの表現者との交流により、学校へのアウトリーチでは楽しい雰囲気の中コミュニケーションの重要な感覚を子供たちが感じ取れること、学校側には「この子がこんな表現を！」など驚きを与え、殻を破るための有効手段と理解を促すことをねらいとして実施した結果、子どもたちは想像力が刺激され、いきいきとした表情へと変わっていく姿が見られました。先生方からは遊びを通して他者へ目を配り生活することの大切さが理解できたとコメントを頂くことができました。表現者対象のワークショップは、新たな体験により向上していただくことをねらいに実施した結果、他者を見ること、他者の気持ちや動きを理解しようとする意識の高まりが見てとれたことが印象的でした。地域において表現活動をしている様々な年齢の人たちが交流でき、互いに刺激しあえたことは有意義であり大変参考となったと多くの感想が寄せられたことは実施の成果につながったものと認識しております。

●この事業全体を振り返って

7ホールで本事業を実施していくなかでは、準備会議、研修会等でホール担当者が顔を合わせて意見交換するということが重要であると感じました。特に研修会でワークショップを体験できたことで、緊張が緩和され、参加ホール担当者との良きコミュニケーションとなりそこからチームの輪が生まれたようにも思いました。そして、ワークショップで何ができるか？その可能性を見いだせたことで企画にも反映でき、学校側への伝達もスムーズにできました。本事業では制作状況とノウハウが共有できたことで販促が強化され、公演チケットの販売は驚くほど順調でした。このことから、当初の参加理由でもありました新たな演劇ファンの獲得の手ごたえをつかむことが出来たと感じております。ツアーのトップバッターでプレッシャーを感じながらも後につなげたい一心で従事することができた貴重な経験でもありましたが、地域創造はじめ連携ホールからの後押しがあったおかげで公演は大盛況となりました。当方の事業が終了しても、以降実施されるホールへ向けて的確な情報発信をしていくことも重要であることを学ばせていただきました。

●今後の事業展開

芸術家と市民との交流プログラムは当方での継続事業として位置づけられていることにより、今後も本事業のように他館との連携やネットワーク事業などを積極的に推進してまいります。また、今回「こどもと観る演劇プロジェクト」と題して行って大きな反響があったことで、今後も同様の公演を期待する人々の為に、楽しめるお芝居を提供していきたいと考えております。

実施データ（妙高）

実施団体	公益財団法人妙高文化振興事業団
実施ホール	妙高市文化ホール
担当者	大野雅季
公演（公演日、開演時間、入場料金、動員数）	
① 10月5日（土）14:00開演 [入場者 154名]	
② 10月6日（日）11:00開演 [入場者 147名]	
入場料金＝一般：1,200円、3才～高校生：500円、親子ペア券：1,500円	
アウトリーチ（実施日、学校名、対象学年、参加人数、時間、会場）	
・ 10月1日（火）：妙高市立姫川原小学校4、5、6年生 [31名] / 3、4限（10:40～12:15） / 体育館	
・ 10月1日（火）：妙高市立新井南小学校4、5、6年生 [40名] / 5、6限（13:55～15:30） / 体育館	
・ 10月2日（水）：妙高市立妙高小学校4年生 [33名] / 3、4限（10:40～12:15） / 体育館	
一般ワークショップ（実施日、対象者、参加人数、時間、会場）	
実施日：10月6日（日） / 対象：高校生以上の演劇経験者 / 参加人数：23名	
時間：13:00～15:00 / 会場：妙高市文化ホール練習室B	

下見・アウトリーチ・公演スケジュール

	7月2日 下見	3日	9月30日 実施期間	10月1日	2日	3日	4日	5日	6日	
9:00		小学校下見				仕込み	仕込み 場当たり ゲネプロ			
10:00		↓		姫川原小 アウト リーチ	妙高小 アウト リーチ					
11:00		↓		給食交流会	給食交流会					公演②
12:00	移動	↓								
13:00		情報宣伝		新井南小 アウト リーチ						一般対象 ワーク ショップ
14:00	↓	↓								公演①
15:00	打合せ	劇場下見								
16:00	情報宣伝 取材	↓								
17:00		移動								
18:00	↓	↓	移動							
19:00	交流会	↓	↓							
20:00	↓		↓							
21:00										
22:00										

●この事業への参加理由

市民に良質で本物の舞台芸術を地域の劇場で楽しんでいただくとともに、幼小期から優れた演劇作品に出会うことで未来の劇場ファン・演劇ファンを創出することを目的に公共ホール演劇ネットワーク事業に参加した。

劇団が1週間程度地域に滞在して演劇公演と公演に関連したアウトリーチやワークショップを実施する特色のあるプログラムが充実しているほか、担当職員の企画・制作能力の向上を事業趣旨のひとつとしているため、幹事館をはじめ各地域の先進的で専門的なスキルやノウハウを共有して学ぶことに大きな魅力を感じた。

●地域交流プログラム事業のねらいと成果

【学校等でのアウトリーチ】作品のコンセプトが「こども」と「おとな」が劇場でひとつの体験を共有しお互いに理解を深めることを目的としていることから対象を小学生にしぼって実施した。この事業に対する反響や参加希望の声も多く、なるべくたくさんの小学校・児童・保護者を巻き込みたいと考え、3コマとも異なった小学校で実施した。地域文化の将来の担い手と出会えたとともに、当ホールの活動の情報が届きにくい遠隔地域の小学校を選定して出前したことで、当事業団の文化芸術活動を知っていただく良い機会となった。

【公募によるワークショップ】1回2時間かぎりのワークショップ内容に設定したため、高校生以上の演劇経験者を対象に実施した。気鋭の演出家・劇作家と直接ふれあえる滅多にない好機に市内の演劇人をはじめ市外・県外からも観劇とセットでご来館いただき交流することができた。高校演劇界でも著名な講師であるため、地域の高校演劇部員など若者の参加者が多かったことも成果のひとつとなった。

●この事業全体を振り返って

公演の集客ターゲットとして想定していた地域の親子や若年層を中心とした観客に良質で本物の舞台芸術を堪能いただき、これまで当館に縁遠かった新たな劇場ファン・演劇ファンを獲得することに成功した。

作品上演に最適な環境を実現するため、妙高公演のみ舞台上に舞台と客席を設定した。必ずしも演劇公演に適しているとは言い難い多目的ホールでの劇場空間の利用方法や可能性の選択肢が増えた。

公演を通じてこれまで関わりが深いとはいえなかった地域の各種団体等と交流することができ、今後の事業展開の大きな財産になった。

準備会議、研修会、ワークショップ体験、制作会議、アウトリーチ視察など、経験の浅い当館担当のために終演まで懇切丁寧にご指導いただけたことが公演の成功につながった。

●今後の事業展開

今事業で培ったネットワークと学ばせていただいたノウハウ等を今後の事業に活かして、事業予算や地域人口の少ない小規模館では実現が難しい魅力的な演劇事業を継続実施したい。

実施データ（金沢）

実施団体	公益財団法人金沢芸術創造財団
実施ホール	金沢市民芸術村ドラマ工房
担当者	桶田奈美子、長井珠子、井口時次郎
公演（公演日、開演時間、入場料金、動員数） 10/12、13 両日とも 14 時開演。入場料：一般 2000 円、高校生以下 500 円、親子ペア 2300 円 10/12（土）133 名 10/13（日）157 名	
アウトリーチ（実施日、学校名、対象学年、参加人数、時間、会場） 10/8（火）金沢市立中村町小学校 3 年生 場所：体育館（バスケットコート 2 面分） （3 年 1 組 29 名 5・6 限目 13:50～15:30 / 3 年 2 組 30 名 3・4 限目 10:35～12:05） 10/9（水）金沢市立野町小学校 4 年生 場所：マルチパーパス（112 平方メートル） （3 年 1 組 35 名 3・4 限目 10:40～12:15 / ●4 年 1 組 32 名 5・6 限目 14:00～15:35） ※黒丸●は本ネットワーク枠外の企画として独自に実施。以下一般ワークショップについても同じ。	
一般ワークショップ（実施日、対象者、参加人数、時間、会場） 10/11（金）19:00～22:00 一般市民対象、16 名参加、金沢市民芸術村マルチ工房（495㎡） ●10/12（土）15:30～17:30 高校演劇部員対象、24 名参加、金沢市民芸術村マルチ工房	

下見・アウトリーチ・公演スケジュール

	7月3日 下見	4日 →	10月7日 実施期間	8日	9日	10日	11日	12日	13日 →		
9:00						照明 音響 舞台 仕込み	舞台稽古				
10:00		アウト リーチ 先下見		アウト リーチ	アウト リーチ						
11:00											
12:00											
13:00											
14:00		ドラマ 工房 下見							公演	公演	
15:00									高校生 WS	バラシ	
16:00											
17:00		金沢発					ゲネ				
18:00			金沢着			場当たり			金沢発		
19:00	金沢着		会場 打ち合わせ		客席仕込み				打ち上げ		
20:00	交流会							一般 WS			
21:00											
22:00											

●この事業への参加理由

①全国的に活動しているカンパニーによる公演・ワークショップを行うことで、新しい演劇ファンを創出し、それにより金沢の地域演劇を刺激し、活動の活性化を図りたいということ。

②金沢市民芸術村ドラマ工房では「キッズクルー」「ジュニアクラブ」など「こどものための事業」にも力を入れており、「こどもと観る演劇」を上演することでたくさんのこども（加えてそのご家族）に演劇を面白いと感じてもらい、それによってドラマ工房の事業に興味を持つ市民を増やしたいということ。

③他地域の劇場と制作情報を共有することにより、ドラマ工房での制作のあり方を再考するとともに、今後も情報交換を行うことができるネットワークの必要性を感じたということ。

●地域交流プログラム事業のねらいと成果

アウトリーチ事業についてはこれまでドラマ工房としてあまり取り組んできておらず、今回の事業を通じてまずは地域の学校に金沢市民芸術村の活動に興味を持ってもらうことを念頭に置きました。

金沢市内の2校にご協力をいただきワークショップを行いました。学校側（教員側）が求める「演劇が上手くなる講習会」と、アーティスト側の「コミュニケーションスタイルそのものを問うワークショップ」との間で、違いが浮き彫りとなることがありました。ワークショップ自体は非常に有意義なものであったので、今後はワークショップ（アウトリーチ）の意義を教育現場にいかにつまみ渡せるかが課題となるのではないかと感じました。

●この事業全体を振り返って

- ・準備年度において、財団の皆さま・各劇場の皆さまとの話し合いを持つことができ、金沢ならではの開催方法について考える良い機会となりました。また、中屋敷さんのワークショップを子どもの気持ちで受けることで、アウトリーチのイメージをつかむことができ良かったです。
- ・各劇場の皆さまの熱意と努力をメーリングリストを通じて感じ、金沢も難題を乗り越えて頑張らなくてはと思い、アウトリーチ先の学校との連絡や芸術村からの広報活動に、全力で取り組みました。
- ・今回の「ながぐつをはいたねこ」は親子で観るのに相応しい楽しく魅力的な芝居だったので、大変好評でした。普段、演劇を鑑賞したことのない親子が多かったのですが、芝居の楽しさを心底味わうことができたようでした。
- ・新進気鋭の中屋敷さんのワークショップを受けることができ、受講生は大変満足し、演劇への熱意が向上したようでした。

●今後の事業展開

・地域社会とのつながりを考える上で、市民公開講座やアウトリーチといった地域交流プログラムは欠かせないものだと再認識しました。今回の事業を踏まえ、地元で活動する演劇人と地域社会を結びつけるような事業を計画していきたいと考えています。

実施データ（大垣）

実施団体	公益財団法人大垣市文化事業団
実施ホール	文化ホール（大垣市スイトピアセンター）
担当者	高橋 博子
公演（公演日、開演時間、入場料金、動員数） 10月26日（土） 14:00開演 一般：1,800円、高校生以下：800円、親子ペア券2,300円 キャンパスシート 一律1,000円（当日空席がある場合・要学生証） 入場者数：270名（招待含む） チケット販売数：280枚	
アウトリーチ（実施日、学校名、対象学年、参加人数、時間、会場） ・10月22日（火） 大垣市立南小学校 ① 4年1組（30名） 8:40～10:15 体育館 ② 4年2組（29名） 10:35～12:15 体育館 ・10月23日（水） 大垣市立日新小学校 ① 4年生（32名） 10:45～12:15 体育館	
一般ワークショップ（実施日、対象者、参加人数、時間、会場） 10月26日（土） 高校演劇部員対象 14名 10:00～12:00 スイトピアホール	

下見・アウトリーチ・公演スケジュール

	9月19日 下見	10月21日 実施期間	22日	23日	24日	25日	26日	27日
9:00	移動		7:30ロビー 集合 南小WS 8:40～10:15	9:30ロビー 集合 移動		8:45ロビー 集合 移動 残作業	8:45ロビー 集合 移動	
10:00	打合せ		10:35～12:15	日新小WS 10:45～12:15			一般WS 10:00～12:00	三重へ移動
11:00	劇場下見		↓	↓				
12:00	情宣 (記者クラブ)		給食交流	給食交流		↓	↓	
13:00	昼食・移動		振返り	振返り		場当たり ゲネプロ 直し 終了/移動	13:30開場	
14:00	日新小下見		移動	移動	劇場にて稽古		本番公演	
15:00	移動	移動	打合せ	打合せ/稽古			アフター トーク 客出し	
16:00	南小下見	↓	移動	↓	↓		バラシ	
17:00	移動	↓		↓	仕込み		↓	
18:00	情宣 (ケーブルTV)	事前打合せ		移動			終了/移動	
19:00	移動 交流会							
20:00	↓				稽古			
21:00	↓				終了/移動			
22:00	三重へ移動							

●この事業への参加理由

子どもと親が共に観て楽しめる演劇を企画することにより、将来の文化の担い手となる、子どものファンを創出することを目指し参加しました。

また、他館と連携した公演及び演劇の手法を活用した地域交流プログラム（アウトリーチ等）を通して、様々な課題におけるノウハウを共有することで、職員としてのスキルの幅を広げ、今後の事業に活かしたいと思いました。

●地域交流プログラム事業のねらいと成果

小学校のアウトリーチでは、児童が普段気づかなかった仲間の特徴、特技を演劇のゲームを通して分かり合うことで、新しい発見と自己表現方法の大切さを知る機会にすることをねらいにしました。

結果として、児童からは「みんなで協力する事がすごく大切な事だと気付いた。」等の声が多く出ました。また、教師からは、「いつもの姿と少し異なり、生き生きとし、仲間と仲良く関わる姿を見る事ができた。学級でもこのような子どもたちの姿を日々の指導に活かしていきたい。」という意見をいただきました。参観した保護者からも「こんなに素直に人の話を聞けるとは。」「授業参観でも見られない姿が伺えた。とても驚いた。」という反響がありました。

一般のワークショップは、高校演劇部員を対象に実施しました。毎年、県大会出場を目指してしのぎを削る高校演劇部が12校あり、中屋敷氏率いる俳優と触合い、新たな演劇の手法と楽しみ方を体験してもらうことをねらいました。ワークショップでは、演じることの基本として、他者をよく理解しながら、その中でどのように自己表現したら良いのかということ学び、参加できなかった演劇部員にも伝えて、ステップアップして行きたいという思いがアンケートからも得られました。

●この事業全体を振り返って

当文化事業団では、7都市で連携事業を行うことや、劇団員が長期滞在して行うこと等が、すべて初めてであり、当初は不安を抱いていました。しかし、事前に何回かの顔合わせをし、交流する機会が持てたこと、さらに共有メールで情報・意見交換を行うことにより、コミュニケーションを持ちながら進められたので、本公演を盛り上げ成功させたいという普段とは異なる意識が芽生えました。また、制作についても、地域創造の方をはじめ、ネットワーク事務局の今井氏と、劇団の中屋敷氏、斎藤氏、連携館の職員による懇切丁寧なご指導から様々な手法を学ぶことで、結果として目的であった新しい顧客層の獲得・拡大を果たすことができました。

●今後の事業展開

毎年、市民創作劇を実施していますが、次年度は今回出会った若い層の演劇ファンが出演できる機会と、引き続き親子で鑑賞できるような演目で継続していきたいと考えます。

実施データ（三重）

実施団体	公益財団法人三重県文化振興事業団
実施ホール	三重県文化会館
担当者	松浦茂之 今井香菜
公演（公演日、開演時間、入場料金、動員数） ①「ながぐつをはいたねこ」11月2日（土）14:00開演 [観客 215名] ② 11月3日（日）11:00開演 [観客 226名] ①「へんてこレストラン」11月2日（土）17:00開演 [観客 178名] ② 11月3日（日）14:00開演 [観客 184名] 入場料金＝一般 ¥2,000 大学生以下 ¥1,000 小学生以下 ¥300 ※当日券は一般・大学生以下券のみ ¥200 増 ※黒丸●は本ネットワーク枠外の企画として独自に実施。以下アウトリーチ、一般ワークショップについても同じ。	
アウトリーチ（実施日、学校名、対象学年、参加人数、時間、会場） ○10月28日（月）津市立高茶屋小学校 4年生 会場＝同小学校2階ホール（オープンスペース） ①1・2限目1組 [参加 27名] ②3・4限目2組 [参加 27名] ③5・6限目3組 [参加 29名] ●10月30日（水）津市立戸木小学校 4年生 [参加 36名] 3・4限目 会場＝同小学校体育館	
一般ワークショップ（実施日、対象者、参加人数、時間、会場） ○10月27日（日）親子向け（三重県子どもNPOサポートセンター内クローズド募集） [参加 5組 10名] 14:00-16:00 会場＝津駅前ビル アスト津5階 レクリエーション室 ●10月30日（水）高校演劇部生徒向け（三重県高校演劇連盟内クローズド募集） [参加 15名] 17:30-19:30 会場＝三重県文化会館 第1リハーサル室	

下見・アウトリーチ・公演スケジュール

	9月20日 下見	10月27日 実施期間	28日	29日	30日	31日	11月1日	2日	3日
7:00			7:20 ロビー集合 (移動)						
8:00			学校入り 高茶屋小 WS						
9:00	(前日中に 三重入り)		① 8:50-10:25		9:30 劇場集合 (移動)	仕込			
10:00	WS 会場下見 (移動)		② 10:45-12:20	劇場 IN 終日稽古	学校入り 戸木小 WS		残作業	アップ ゲネ準備	10:20 受付 10:40 開場
11:00	戸木小 打合				● 10:40-12:15			ながぐつゲネ 11:00-11:45	②ながぐつ 11:00-11:45
12:00	(昼食・移動)	(三重入り)	給食交流		振り返り			ダメだし	アフター イベント 客出し
13:00	(移動) 劇場下見	WS 会場入り 劇場で稽古	③ 13:50-15:25		(移動) 劇場戻り稽古		場当たり	13:20 受付 13:40 開場	13:20 受付 13:40 開場
14:00	ツアー打合せ (移動)	○親子 WS 14:00-16:00					稽古・ 場当たり	①ながぐつ 14:00-14:45	②へんてこ 14:00-14:40
15:00	高茶屋小 打合		振り返り					アフター イベント 客出し	アフタートーク 客出し
16:00	(移動) FM 三重出演	(移動・合流) 劇場で稽古	(移動)		(WS)			16:20 受付 16:40 開場	ぼらし
17:00	(移動) フリー		※この日は 稽古 OFF		受付 照明仕込 ●高校 WS			①へんてこ 17:00-17:40	
18:00					17:30- 19:30			アフタートーク 客出し	劇場 OUT
19:00					稽古再開		ゲネ準備 へんてこゲネ	ダメだし 終了	
20:00							19:30-20:10 ダメだし		
21:00		劇場 OUT		終了	終了	終了	終了		
22:00	帰京								

●この事業への参加理由

幹事館として参加。

柿喰う客は、弊館においてもっともリピート率の高い固定ファンを持つ。特に、「若者」「親子」といった新しい演劇ファン層の獲得を得意とするため、地方劇場における“演劇熱発起の起爆剤”として全国の地方劇場に紹介したいと考えた。また、その全国ツアーを通して各地の劇場・地域の演劇人と出会い、今後連携していける人脈ネットワークを広げたいと考えた。

●地域交流プログラム事業のねらいと成果

小学校アウトリーチは、未来の演劇ファンと出会う場。気負いがちな“俳優”や“劇”“演じるということ”を苦手意識なくスルッと受け入れてもらえるプログラムを前提とし、子どもたちに幸せな演劇体験を提供することで、劇場への来場を促し、観劇を生活の一部とする未来の演劇ファンを育てることを主な目的とする。

ワークショップへの取り組み方はクラスによって様々で、それを先生方が新鮮に観察してくださったのが印象深い。特に気がかりな生徒がいるクラスほど気づきが多かったよう。支援学級の生徒が初めて担当の先生の手を離れて授業に参加したことで、フォローに回ることができる生徒の存在がぐっすり見えたと感動を伺った。また、ワークショップ後の振り返りも有意義で、別のクラスのワークの様子を聞くなどして、自分の担任するクラスの特徴を再認識する若い先生もあった。どちらの学校も、最後に「またこうした授業があればぜひ声をかけてほしい」と言っていたが、確かな手ごたえを感じた。

一般ワークショップは、親子向けと高校生向けの2プログラムを実施した。それぞれ、地域の関係団体と連携し、各団体内でのクローズド募集とした。地域の関係団体に劇団と公演を紹介することも目的のひとつ。

親子向けは、子ども NPO サポートセンターとの連携。普段から公の活動に意欲的な親子ゆえ、小学校でのワークショップよりは踏み込んで演じることを体験する内容となった。が、反復がやや長かったようで、集中が切れた様子の子も目立った。大人には非常に好評だった。

高校生向けは、高校演劇連盟との連携。俳優の基礎訓練の内容で、おそらく中屋敷氏のもっとも得意とする分野だろう。ワークショップ終了後も1時間ほど生徒から質問攻めにあっており、信頼・人気の高さが伺えた。

●この事業全体を振り返って

当初のねらいどおり、各地で“演劇熱”がにわかに発起し、連鎖するように日本列島を南下したように感じた。トップバッターであるひたちなか公演のチケット完売が、つづく劇場に追い風を吹かせた。弊館は再演のため券売に不安があったが、ふたを開けると券売目標を超え、増席対応するほどとなった。また、増席の際には、先に増席した妙高公演のノウハウに倣い、これもネットワークの恩恵を強く感じた。インパクトあるチラシも、インターネットでの情報発信も、今回のターゲットである若い親子世代を巻き込む戦略に合っていたように思う。ただ、弊館は他館に比べると固定客（既存の劇団ファン）が多く、子ども率が比較的低く（29%）とどまったのが残念。それでも、アンケートでは約74%が30歳代以下、約半数（48%）が初めて来館したと答えており、新規客開拓としては大きな成果だ。観劇の反応は、子どもも大人も非常に良く、満足度は限りなく100%に近い数字（99.3%・5段階評価の上位2位）となった。なかには、小学校アウトリーチの縁で来場した“初めての観劇”の子もあり、その付き添いで来た母親から終演後に“大満足”との声をかけていただき、劇団ともども嬉しく思った。

小学校アウトリーチでは、1校、ファーストアプローチから2度担当者が代わった学校があり、開催当日まで心配した。が、ワークショップ内容を具体的に伝えることができていたため、先生としては不安なく取り組んでいたそう。これも、他館のワークショップを事前に見学させていただいたためと有り難く思う。

●今後の事業展開

本事業で培った劇場間ネットワークを活かしていきたい。特に東海圏の3劇場は、連携により制作面でも広報展開の部分でも共に得るところが大きいと感じた。来年度、連携できる事業を企画したい。

幹事館としては、他地域での予想を超える反響に感動している。弊館で一定の成果を上げている若手劇団については、今後もこの演劇ネットワーク事業を通して積極的に他劇場の皆さまへ紹介したいと考える。

実施データ（長久手）

実施団体	長久手市
実施ホール	長久手市文化の家 風のホール
担当者	遠藤健一 神藤貴司
公演（公演日、開演時間、入場料金、動員数） 11月9日（土）11:00、15:00 前売 一般2,000円、フレンズ1,800円、大学生以下1,000円、小学生以下500円 当日 一般・フレンズ2,200円、大学生以下1,000円、小学生以下500円 入場者数250名 チケット販売数256枚（うち15枚招待）	
アウトリーチ（実施日、学校名、対象学年、参加人数、時間、会場） 11月5日・6日、長久手市立長久手小学校、6年生 6年2組35名 5日10:55～12:30 長久手小学校体育館 6年3組34名 5日13:50～15:25 長久手小学校体育館 6年1組35名 6日10:55～12:30 長久手小学校体育館	
一般ワークショップ（実施日、対象者、参加人数、時間、会場） 11月6日（水）長久手市役所 職員 18名 15:00～17:00 長久手市清掃センターエコハウス ●11月10日（日）一般市民・高校生 26名 10:00～17:00 長久手市文化の家 風のホール ※黒丸●は本ネットワーク枠外の企画として独自に実施。	

下見・アウトリーチ・公演スケジュール

	9月18日 下見	11月5日 実施期間	6日	7日	8日	9日	10日
9:00	移動	駅集合	駅集合		仕込み・リハ	会場入り	会場入り
10:00		小学校WS	小学校WS			開場	WS「演じる ハムレット」
11:00	情宣					本公演	
12:00	昼食・移動			仕込み		↓	
13:00			↓				
14:00	小学校下見		振返り・移動			開場	
15:00	会場下見		一般WS			本公演	
16:00	移動	↓	↓			↓	
17:00	情宣				ゲネ	バラシ・撤収	↓
18:00					↓		参加者交流会
19:00	大垣市へ移動			↓		打ち上げ	
20:00							
21:00							
22:00							

●この事業への参加理由

ワークショップやトークイベント、アウトリーチなどの事業数は行っているものの、館から外へ出かけて行う教育・普及活動としてのアウトリーチは、音楽デリバリー、吹奏楽クリニックなど音楽系がほとんどです。子どもと演劇との出会いの場になることはもちろん、今後の演劇系アウトリーチの足掛かりとし、職員の制作技術の向上、演劇ネットワーク事業を通じての他館との交流につなげたいと思いました。

●地域交流プログラム事業のねらいと成果

小学校のアウトリーチでは、学校行事で演劇発表の場があり、プロの演出家や俳優から学び今後活かせるよう自己表現力やコミュニケーション能力を伸ばすことをねらいとしました。

成果として、子どもたちは自由に考え、動く、演じる、友達と協力するといった貴重な体験ができたこととても良い機会でした。子どもたちのアンケートからも「みんなで意見を出しあって個々の役割・協力・団結して活動ができた。」など多く出されていました。また、教師からは、「いつもと違う子どもたちの一面を見れたことに喜びを感じた。」という意見をいただきました。

一般のワークショップは、長久手市役所の職員を対象にコミュニケーションワークショップを実施しました。市民と接する場の多い市役所職員に、ゲーム感覚を取り入れた普段行わない体験をしていただき、今後役に立つコミュニティ形成・きっかけ作りができたことが良い経験になりました。

また、長久手市文化の家の独自の企画として、地域の演劇活動の拠点としての文化の家の存在を周知させるとともに、地域の俳優の育成を目指す目的とした、高校生・一般向けワークショップ「演じるハムレット」を実施しました。

●この事業全体を振り返って

目標としていた演劇系のアウトリーチの足掛かりとして、準備年度からワークショップの研修会や他館との連携事業として交流ができたことは館としての大きな財産となり、事前研修会の果たす役割なども実感することができました。

小学校の教師からは、学校行事の演劇発表に結びつくような、演技指導をしてほしかったという意見があり、学校側の期待とのギャップがあったこと、また、他の行事の日程などで、ワークショップの参加が、観劇に充分結びつかなかったという課題がありました。

●今後の事業展開

専門家による演劇指導的なワークショップなど、様々なプログラムを開催し、演劇を体験できる場を設けるとともに、親子で鑑賞できるような事業を展開していきたいと考えています。事業を効果的に行うためには、学校や地元の演劇団体に対する周知や協力関係が重要であると感じました。地域住民とともに事業を実施し、交流ができるよう、綿密な準備をしながら、事業展開をしていきたいと考えています。

実施データ（佐世保）

実施団体	公益財団法人佐世保地域文化事業財団
実施ホール	アルカス SASEBO イベントホール
担当者	田上佐和子
公演（公演日、開演時間、入場料金、動員数）	
11月23日（土・祝）11:00開演 大人2,000円 子ども（3才～高校生）500円 入場者数278名 チケット販売数289枚（うち3枚招待）	
アウトリーチ（実施日、学校名、対象学年、参加人数、時間、会場）	
11月19日（火）・20日（水）佐世保市立船越小学校 4年生13名 19日10:40～12:20 つくもホール（多目的教室） 5年生16名 19日14:10～15:50 つくもホール（多目的教室） 6年生19名 20日10:40～12:20 つくもホール（多目的教室）	
一般ワークショップ（実施日、対象者、参加人数、時間、会場）	
11月23日（土・祝）高校演劇部員対象 18名 13:30～15:30 アルカス SASEBO イベントホール	

下見・アウトリーチ・公演スケジュール

	10月17日 下見	18日 →	11月18日 実施期間	19日	20日	21日	22日	23日	24日 →
9:00	移動			移動	移動	仕込み	仕込み	準備	各自帰京
10:00		TV取材		小学校WS	小学校WS			開場	
11:00		新聞取材						本番公演	
12:00							舞台稽古	バラシ	
13:00	打合せ							一般WS	
14:00	小学校下見								
15:00	取材								
16:00	劇場下見		移動						
17:00							ゲネプロ		
18:00	FM出演	移動					直し	打上げ	
19:00	懇親会								
20:00			打ち合わせ						
21:00									
22:00									

●この事業への参加理由

当財団ではこの数年、演劇公演は開催数が年間1本程度、商業演劇を大ホールで行うペースになっており、再び少しずつ演劇をはじめ様々なジャンルの舞台芸術を増やしていければと考えています。その再スタートとして、音楽の演目でも要望が多い「親子で楽しめる演目」から取り組むことで、演劇ファンを増やしていくきっかけ作りを目指したいと思いました。また、しばらく演劇公演から遠ざかっていたこともあり、このネットワーク事業への参加で、他地域の取組みやノウハウなどを共有することで、新たな顧客創出のヒントが得られればと思います。

●地域交流プログラム事業のねらいと成果

小学校アウトリーチでは、当ホールの所在地から比較的近い場所にある学校へ出向き、ホールにより親しみを感じてもらうこと、本公演にも足を運んでもらいやすくなることを目的にしました。結果、本公演にはチケットを購入して来てくれた児童の皆さん（先生も）が多く見られ、成果が得られたと思います。

一般ワークショップでは高校演劇部員を対象に俳優ワークショップを行いました。意欲の高い生徒さんが多い学校がいくつかあり、一流のアーティストに出会ってほしいというねらいでした。ワークショップはもちろん、中屋敷さんが時間をとってお話をしてくださって、高校生たちは非常に感激していました。若い時の印象的な出会いや衝撃は、人生の糧になると思います。大きな成果があったと思います。

●この事業全体を振り返って

準備年度の研修会でワークショップ体験ができたことは、学校やマスコミへの説明の際に非常に役立ちました。公演1か月前に、会場下見、マスコミ取材、地元演劇人との交流会を実施できたことは成功への大きな要素となりました。特に佐世保は最終公演地だった為、宣伝素材、情報なども十分にいただきました。公演としては前売り券完売ができたことが非常に珍しいことでした。今回のような事前PR、ワークショップなど、様々な要素を提示できたことで、地元演劇人・マスコミ・高校・小学校を密接に巻き込むことができ、1つのプロジェクトで色々な側面から公演を盛り上げるモデルケースになったと思います。今回、地元の方々と深く関わったことが最も嬉しい収穫でした。

●今後の事業展開

新たな顧客の創出、育成となる取り組みとしてのワークショップや、事前PRなど事業内容がより深く理解してもらいやすい素材を提供できる機会を増やし、1つの事業をより深めたり広げたりしていく努力をしていきたいと思っています。



中屋敷 法仁 (なかやしき のりひと)

青森県出身。1984 年生まれ。柿喰う客・代表。独特の感性と高い演劇教養を武器に、幅広い舞台作品を手掛ける演劇家。柿喰う客全作品の脚本・構成・演出を担う。04 年、柿喰う客の活動を開始。06 年、柿喰う客の劇団化にともない代表に就任。新作はもちろん、古典戯曲や短編、一人芝居など様々なジャンルの作品に挑戦し続けている。外部の脚本・演出も多い。桜美林大学文学部総合文化学科演劇コース卒。

●地域を知ること

我々がしっかり地域と関わったのが、三重県文化総合センターのレジデンス公演でいきなり 2 週間の滞在で新作を創ったんです。それ以来、滞在で作ることが好きになってしまっ。新潟とか枝光(北九州市)とかでも実施しました。東京で作ったものを持っていくのとは、全く違う思考回路で作る、すごい価値のあるものだなと思いました。今回もこんなにいろんなホールの人達の顔が見えて、東京にいただけでは得られない経験をたくさんしました。本当にどこの人もやっぱり付き合い方ですね。

各地の下見の時に色々なクリエイティブなことを考え、ホールの担当者の方々にもこのホールがいかに素晴らしいか、こういう使い方もできますという新しい提案ができるのは、我々が現地の表現者ではないからだと思っています。我々もただの買い取り公演ではなく、継続してお付き合いが出来るような意識で取り組みました。

●研修会と下見

各ホールがどのような意識で我々の劇団を呼んでいるのか、どのようなモチベーションでいるのか、各ホールの方向性がわかったことがすごく良かったです。劇団やこの作品がどういうスタンスでいなければいけないかという覚悟みたいなものができました。初めて行く地域も多かったので、研修会で顔をつきあわせてお話ができたことで各地域の状況がこんなに様々だということがわかったことはとてもよかったです。ある地域では、こんな尖った演出を

したいとか、また別の地域ではオーソドックスにしたらどうだろうとか考えました。

学校下見の際に先生方と打合せをしますが、先生方はなかなか本音で話してくださらないので窓口の先生に対して質問の戦略が足りなかったなど感じています。ワークショップ会場は、場所とサイズが重要なので必ず見せてもらいたいです。

●アウトリーチの難しさ

いろいろな演出家のワークショップを見て学んできたつもりですが、結局オリジナルなものを作らなければならないってところに立ち返ってくる。人のものを借りてもできるけれどそれはどこかで見抜かれるし、うまくいかなかったときに責任放棄してしまうと思いました。オリジナルで普遍的なことを伝えることが難しいなど。アウトリーチでは「これさえやっておけばいい」ってものがまるでない。僕にしか作れなかったプログラムで、アウトリーチの根幹は必ず伝えたい。先輩の俳優さんに言われたことで、同じワークショップでも別の人がやると時間配分とか、進行の言葉の数で性格が出る。そこもオリジナリティだから決して同じものはできない。ある演出家が僕のワークショップをやってみたけど、僕のと全然違っていました。同じことをやっているけれど、別の演出家がやるとその演出家の演劇観がよく伝わってくる。実際の現場では、クラスの関係、家庭環境とかいろいろな要素が出る。子どもたちの素の姿につきあうことが何より大切で、子どもた

ちの個性に気づき、子どもたちの声をどう拾っていけるのか考えました。先生が問題児だと思っている子が、ワークショップ中すごく積極的で我々が助かっている場合もありましたね。アウトリーチは、主語が「あなた（参加者）」からはじめることだと思っているので、僕の名前なんて覚えてもらわなくていいから、これまで以上にクラスメイトのお互いのことにもっと興味を持ってほしい。逆に公募型の場合は、主語は「私（中屋敷）」になるので僕のやっている演劇の世界を提供する。来る人もそれを期待していると思います。

●この事業で得たもの

「世界」の輪郭がくっきりしたという感じです。長崎と佐世保の違いとか、金沢と能登、新潟と妙高の違いとか、東海3県でも全然違いますよね。東京にいとこれは霞んでいきます。何となく関西、何となく九州じゃなくて。それで東京に帰った時も東京のことがはっきりと見えてくる感じがしました。アートに触れると、自分ってもしかしたらこうかもしれないって新しい自分に気づきますよね。

●学校アウトリーチの基本的な流れ

①だるまさんがころんだ

1人の鬼が「だるまさんがころんだ」と言う間に好きな場所へ散らばる。最後の「だ」のときにその場で止まる。動いた人は負け。次にアシスタントの俳優が鬼になり、鬼と視線があったら負け。次に離れた場所にいる人と視線を合わせてペアになる。

体と心を解放させるウォーミングアップ

②かくせんぼ

1人の鬼を取り囲むように円をつくる。円の人達は、手を後ろで組み1つの人形をまわしていく。鬼は、人形を誰が持っているかを当てる。

持っていない演技をすることがポイント

③かくせんぼ

1人が人形を持ち空間全体を使って誰が人形を持っているかわからない状態をつくる。動きまわっても止まってもいい。

全員が協力をして作戦を練る。持っている演技を続ける。



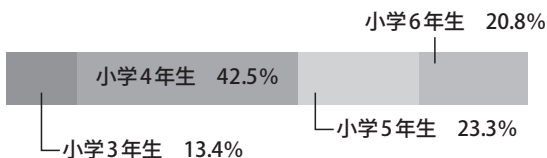
平成 25 年度に本事業でアウトリーチを実施した全 12 小学校の児童及び教員に対し、アンケート調査を実施した。

【調査の方法】

- ・ 調査票の配布：実施団体担当者から教員に必要部数を手渡し、教員から参加した児童、担任教員や学校管理職、見学した教員に直接配布。
- ・ 調査票の回収：実施団体担当者が後日調査票を回収し、(財) 地域創造に返送した。
- ・ 調査実施期間：2013 年 9 月～ 2013 年 11 月
- ・ 回収状況：児童対象調査…701 件、教員対象調査…43 件

児童からの回答

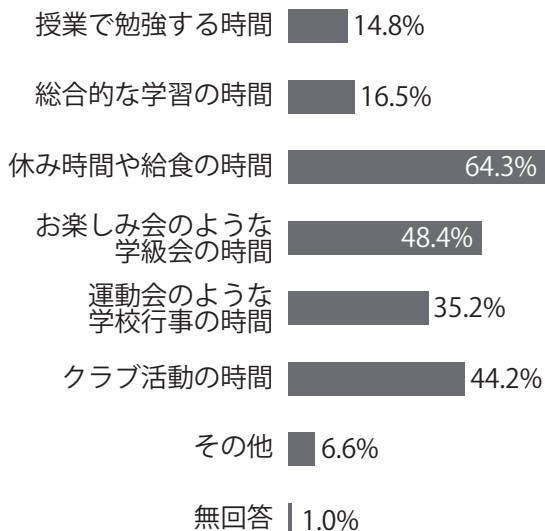
問 1. 学年



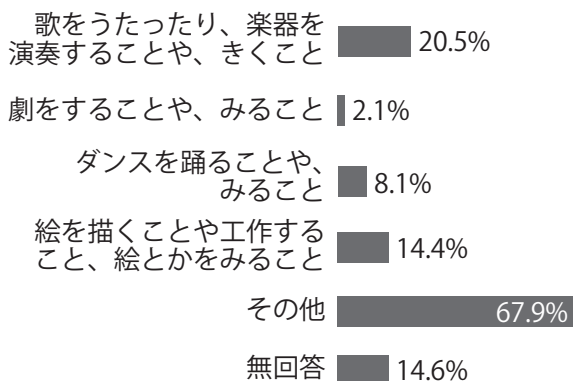
問 2. 性別



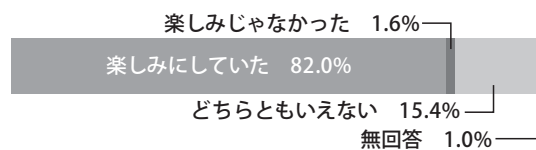
問 3. 学校にいるときに一番楽しいと感じる時間



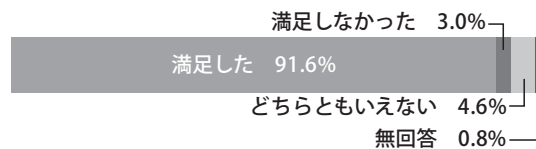
問 4. 習い事やクラブなどでやっていること



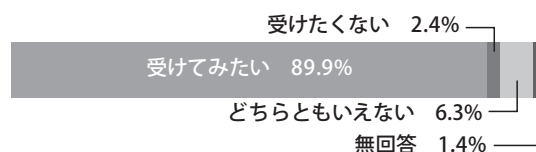
問 5. 今回の時間を前から楽しみにしていましたか



問 6. 今回の時間に参加してみてどうでしたか

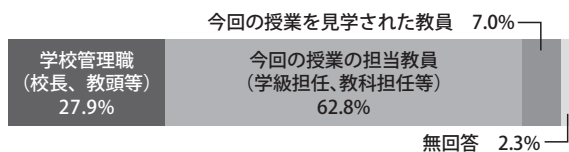


問 7. このような時間を、これからもまた受けてみたいと思いますか。

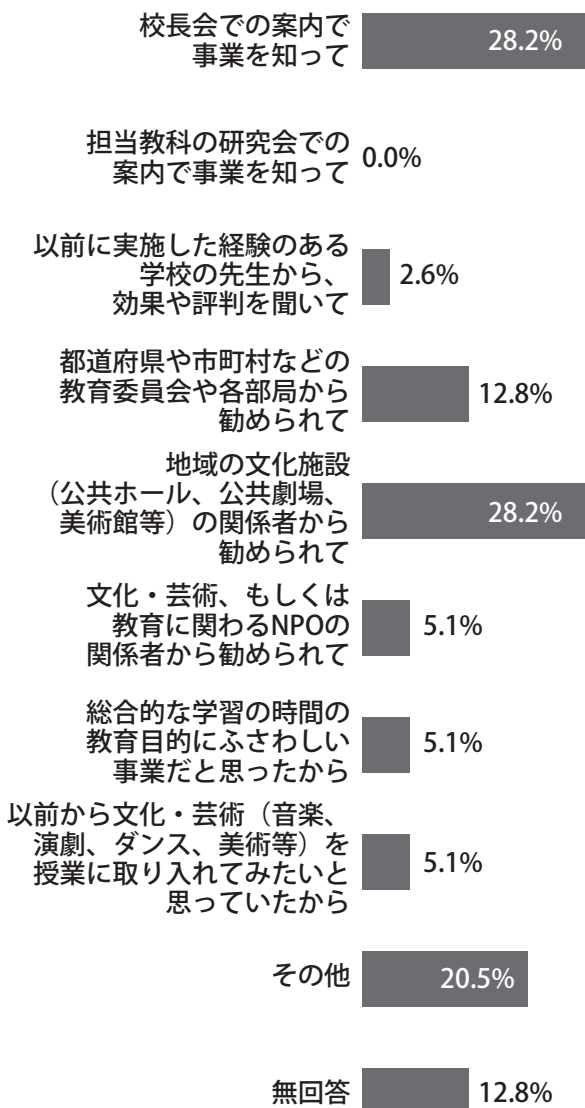


教員からの回答

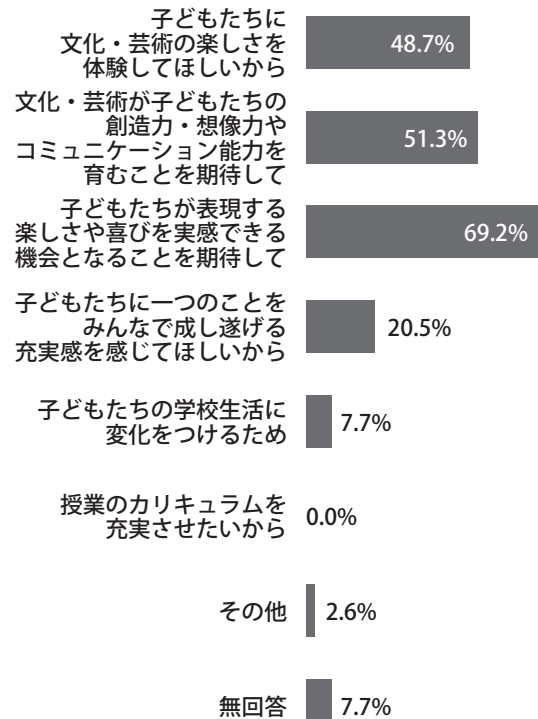
問1. 回答者の立場



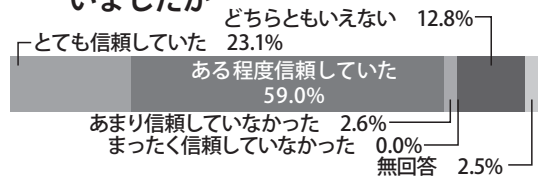
問2. どのようなきっかけで、文化・芸術による地域交流プログラムを実施されましたか



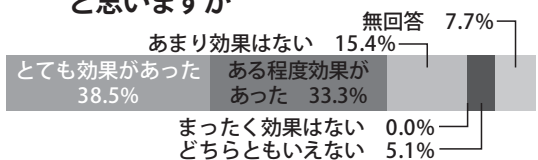
問3. どのような目的で事業を実施されましたか



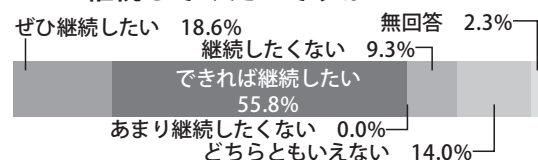
問4. 実施前に、その効果について信頼していましたか



問5. 実施したことで、期待した効果があったと思いますか

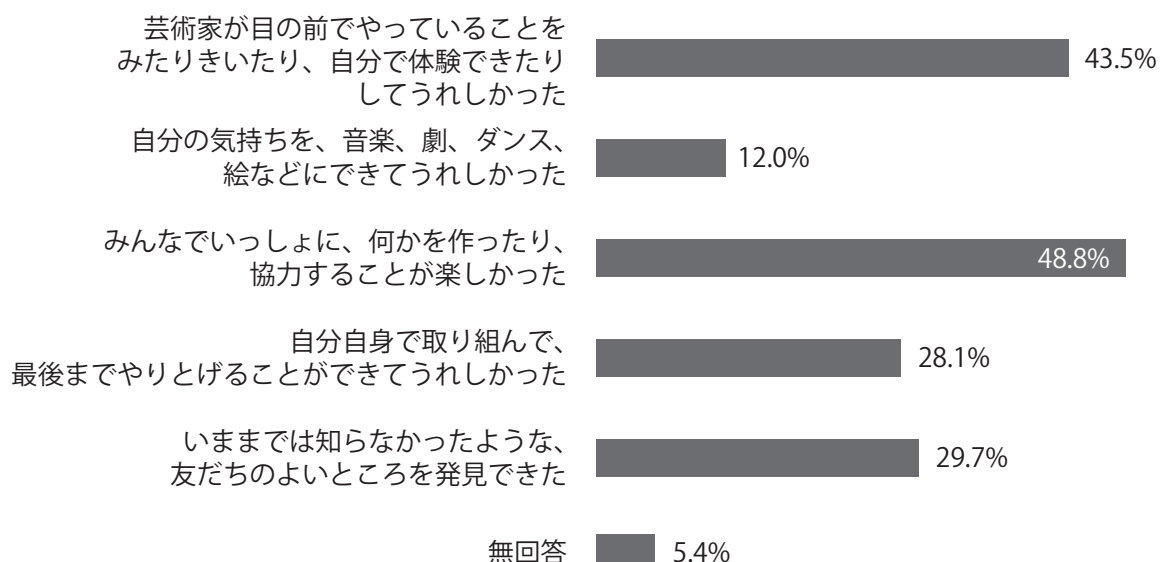


問11. 今回実施したような授業を、今後も継続してみたいですか

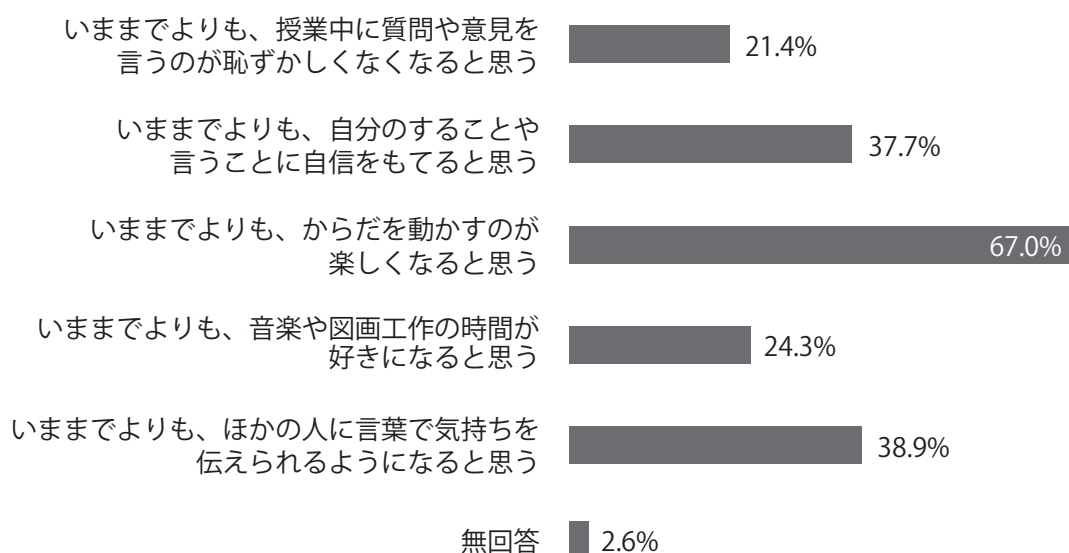


児童からの回答

問8. このような時間を受けてみて、どのように感じましたか



問9. このような時間がまたあると、どのようになるとお思いますか



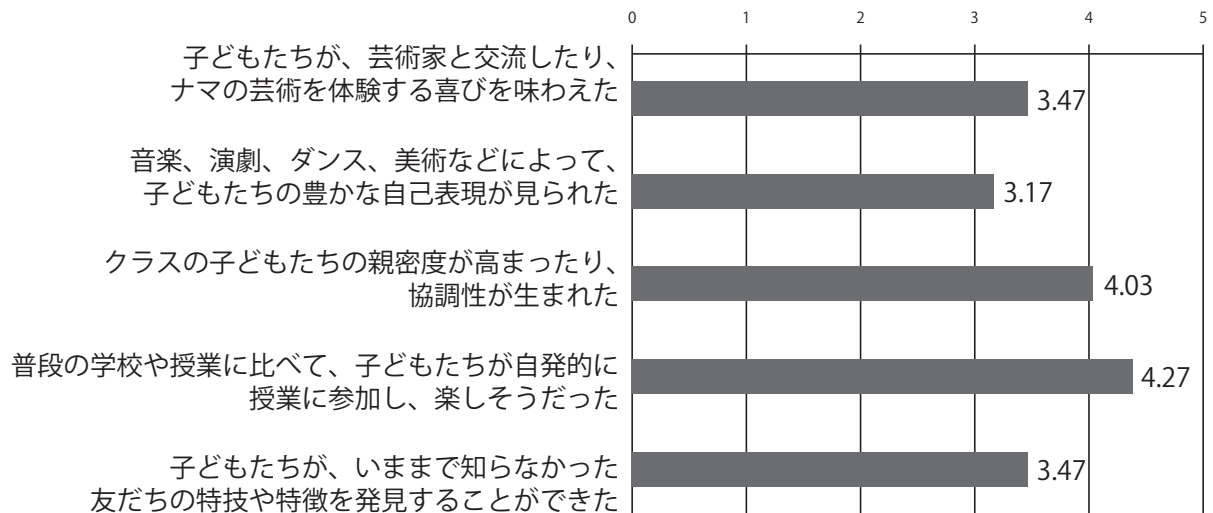
児童生徒 自由記述

- ・小3 (男子)：さいしょ楽しかったけど、あとからつまらなくなった。
- ・小4 (女子)：頭をつかいながらゲームをしたり、みんなで協力してゲームをしたのがとても楽しかった。そしてたくさんのことを学んだ気がした。またやりたい!!
- ・小3 (男子)：楽しくなかった。もうしたくない。さいやくやった。
- ・小5 (女子)：今回は、自分だけがクリアできれば、もうどうでもいい、という気持ちはだめなんだとよく分かりました。だから、自分はクリアできてほかに人のためになにかしてあげようと思いました。
- ・小5 (男子)：「芸じゅつ文化交流」という名前だったけれど、芸じゅつ文化には全く関係のない授業だった

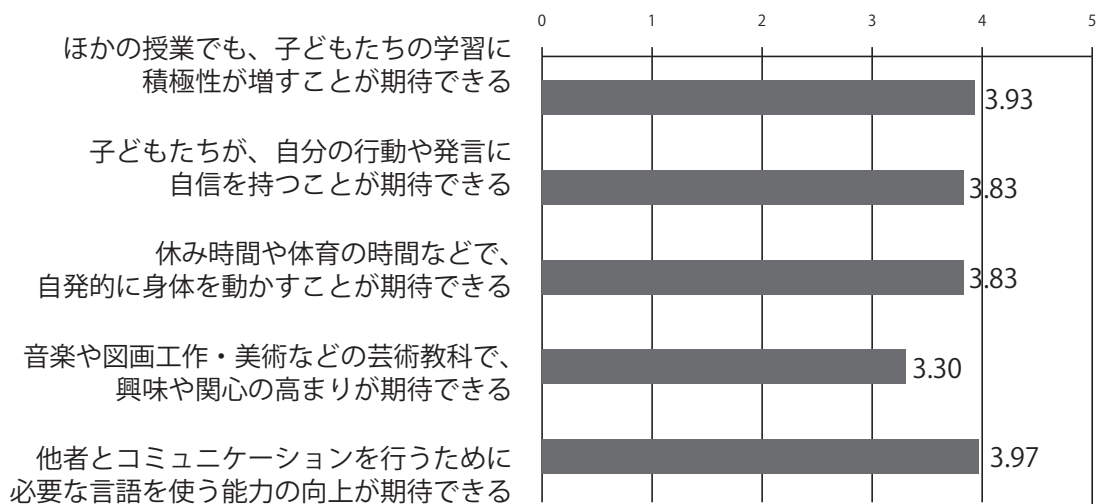
教員からの回答

※問6,7:「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価で尋ね、5～1点のポイントを配して平均値を算出

問6. 具体的にどのような効果があったと思われますか



問7. 今回のような授業を継続した場合、どのような効果が期待できると思いますか



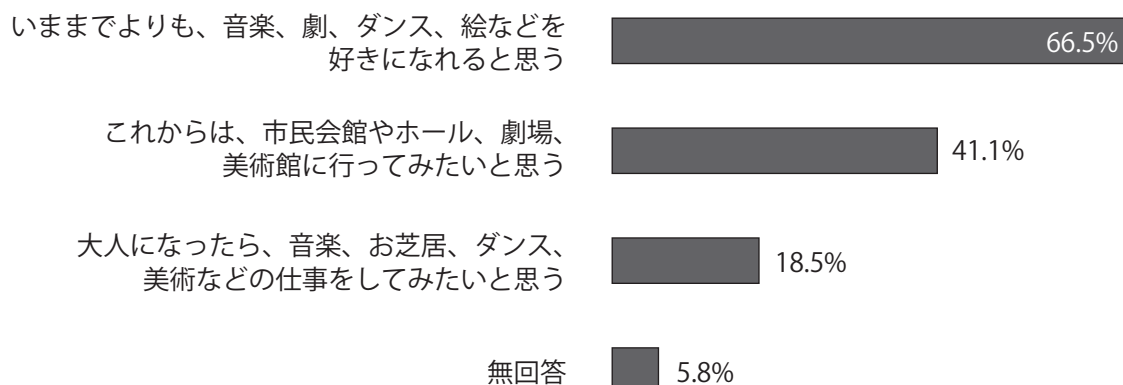
教員 自由記述

【担当教員】

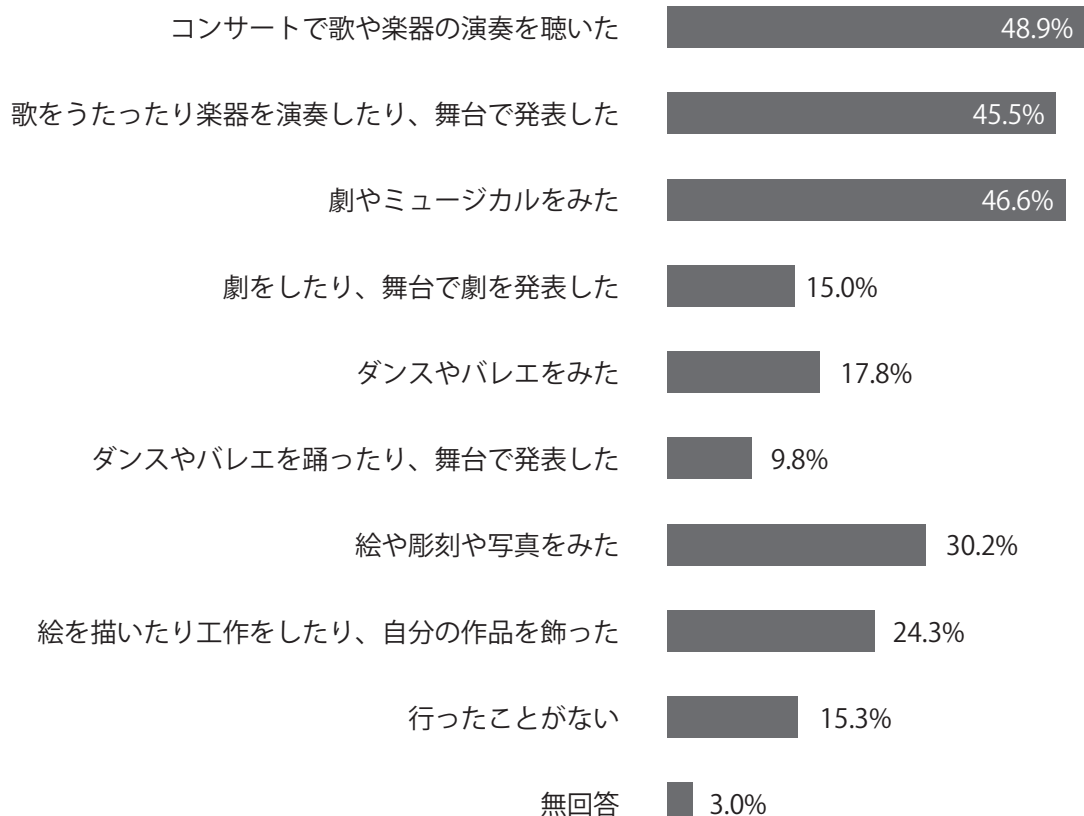
- ・ 普段、教室では見られないような、子ども達の言動を見ることができました。大人しいと思っていた子が、みんなに注目されたり、勝ち気な子が、尻ごみしたりなど、所謂、学力・生活力で決まりがちな子ども同士のポジションが、この時間で変化したようなところも見られ、自分のクラスを客観視できました。
- ・ 事前に授業の内容を知らせ、検討させてほしい。学習時間（2単位時間）を削って行っていることを理解して、内容を計画・実施してほしい。演劇に関する内容や演技の指導をしてほしかった。

児童からの回答

問 10. このような時間がまたあると、音楽、劇、ダンス、絵などについて、どのように感じるとおもいますか



問 11. 市民会館やホール、劇場、美術館などで、みたり、きいたり、参加したことがあるもの



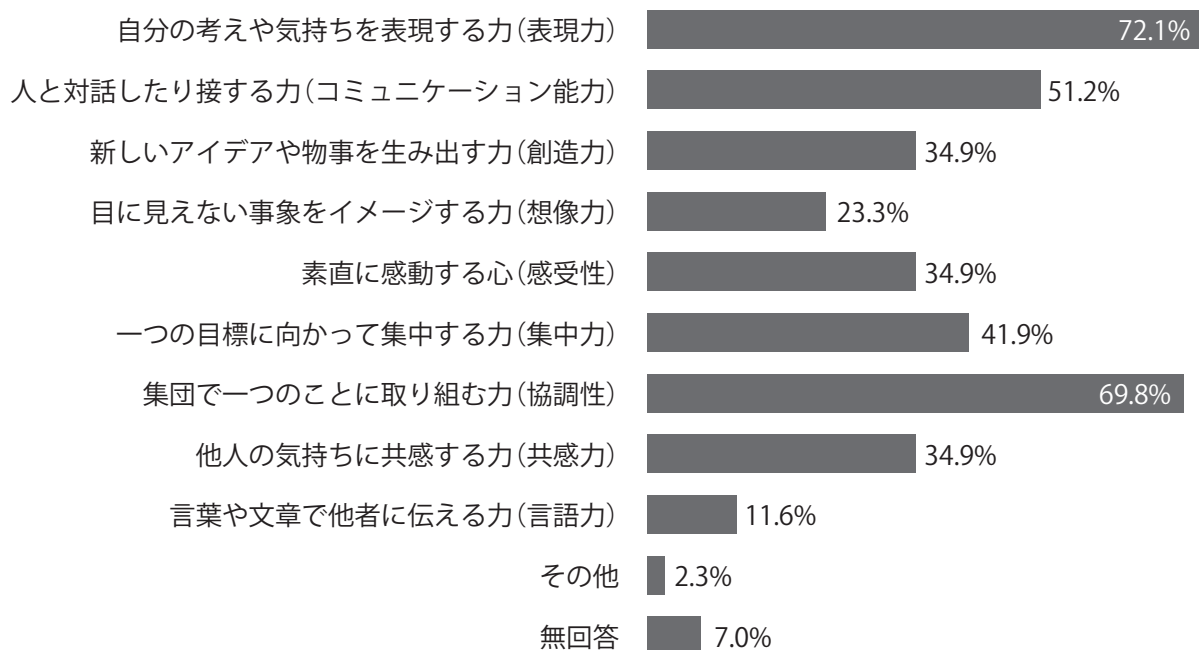
教員からの回答

※問8：「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」まで5段階評価で尋ね、5～1点のポイントを配して平均値を算出

問8. 先生ご自身には、どのような効果や影響がありますか

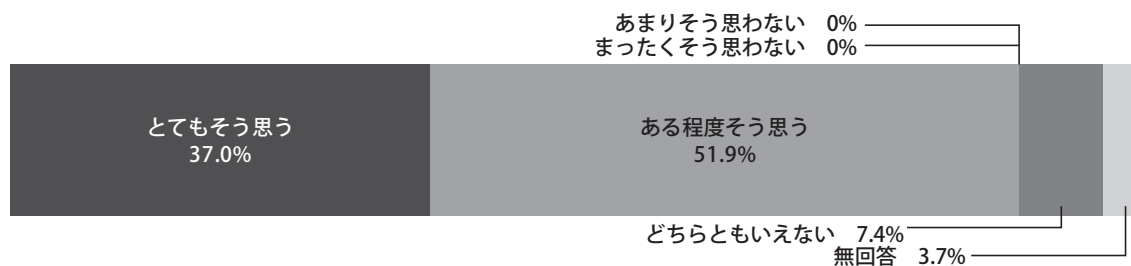


問9. 子どもたちのどのような能力や心を育むことに効果があると思いますか

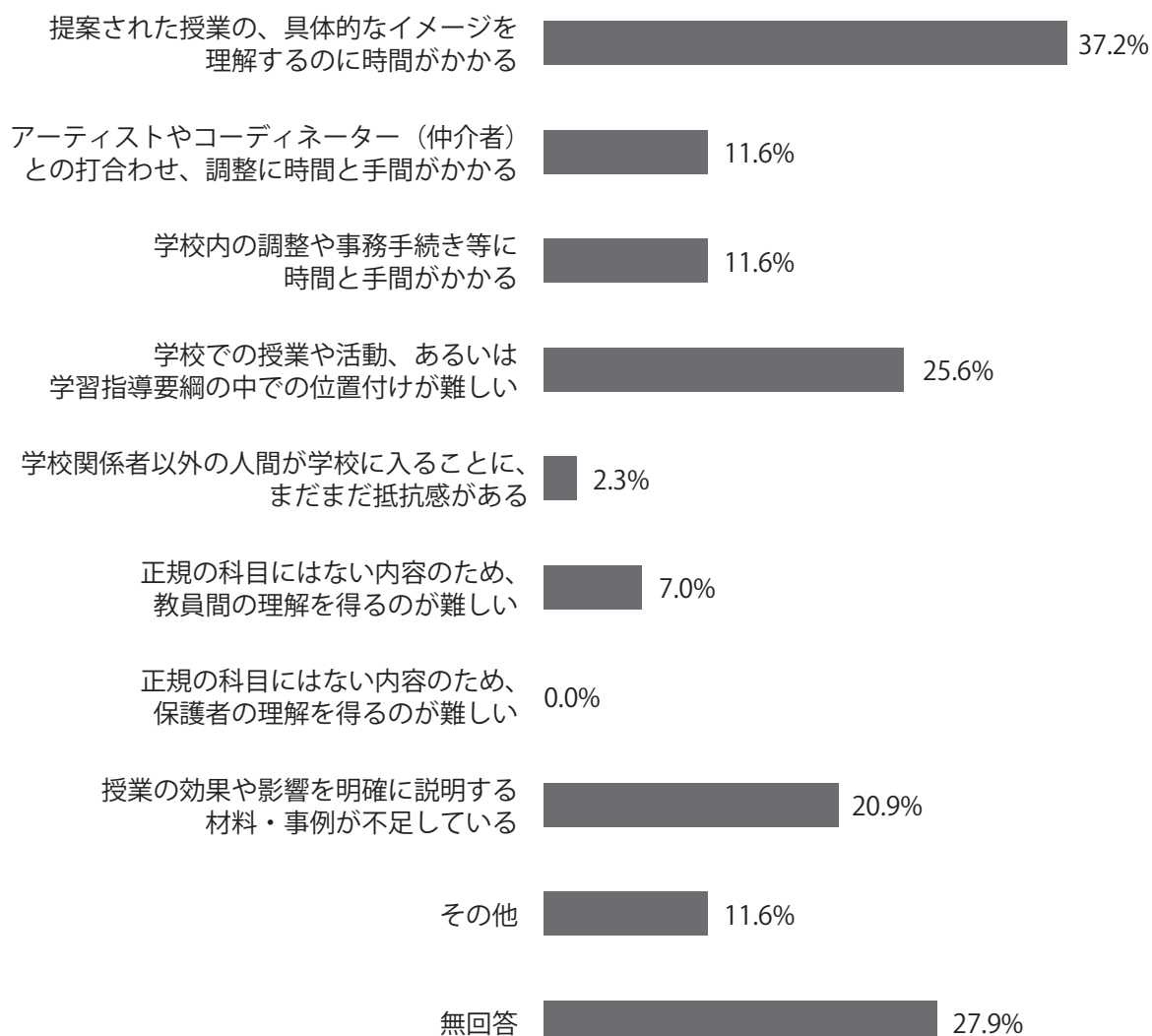


教員からの回答

問 14. 今後今回のような授業を実施するうえで、地域の文化施設等との連携が必要だと思いますか

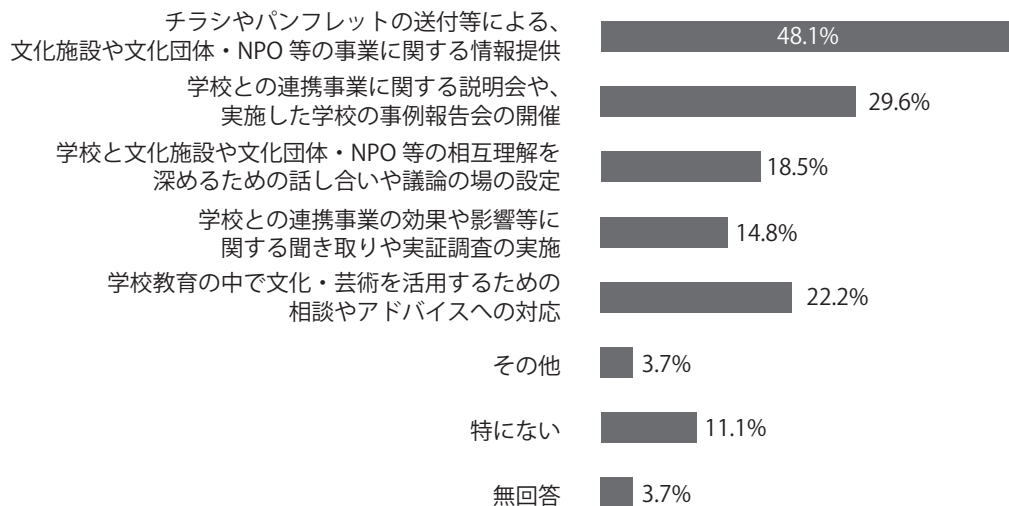


問 10. 今回のような授業を実施するうえで感じられる課題は何ですか

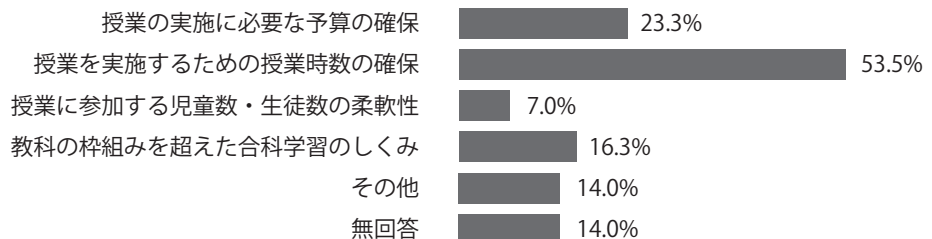


教員からの回答

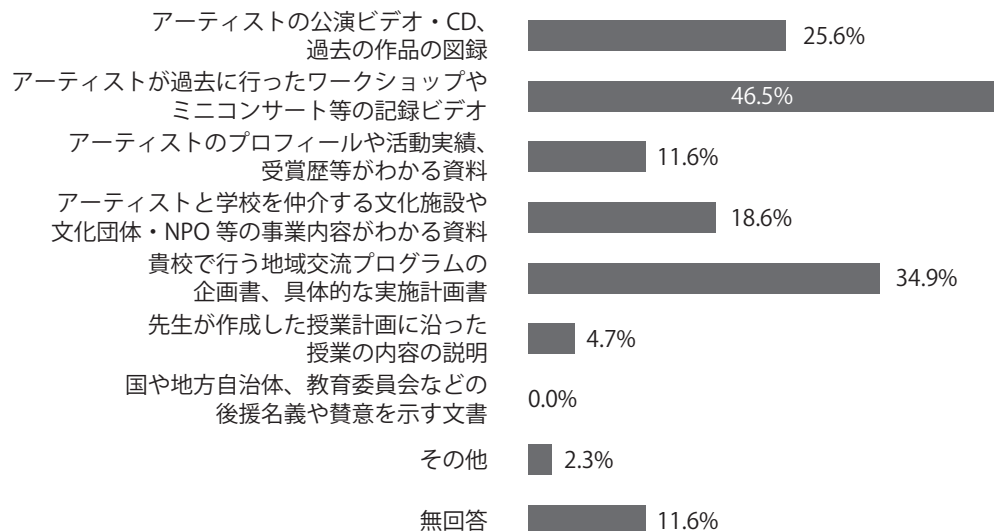
問 15. 地域と文化施設等と学校が連携を深めるためには、どのような機会やしきみが必要だと思いますか



問 12. どのような課題を解決できれば、今回実施したような授業を継続しやすくなると思いますか



問 13. 授業継続するうえで、どのような資料や情報が必要ですか



児童アンケート用紙

Oshiete anata-no-koto

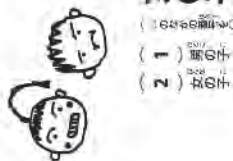
あなたのこと、
今回の時間を、
おしえてください。

1 あなたの学年を 教えてください。



- () どの学年か○を囲んでください。
- (1) 小学1年生
 - (2) 小学2年生
 - (3) 小学3年生
 - (4) 小学4年生
 - (5) 小学5年生
 - (6) 小学6年生

2 あなたは 男の子ですが、 女の子ですか。



- () どの性別か○を囲んでください。
- (1) 男の子
 - (2) 女の子

3

学校にいるとき、
どんなことを
している時間が、
うちはん楽しんでますか。



- () どの時間か○を囲んでください。
- (1) 教科や授業への時間
 - (2) 休み時間
 - (3) 休み時間や授業の時間
 - (4) 友達との時間や授業以外の時間
 - (5) 授業以外の時間や授業以外の時間
 - (6) 休み時間の時間
 - (7) その他()

4

次の中から、
習いごと、
クラブなど、
やっていることは
ありますか。



- () どの活動か○を囲んでください。
- (1) 習いごと(音楽、絵画、ダンス、剣道、柔道、空手、少林寺流、少林寺流、少林寺流)
 - (2) 習いごと(音楽、絵画、ダンス、剣道、柔道、空手、少林寺流、少林寺流、少林寺流)
 - (3) 習いごと(音楽、絵画、ダンス、剣道、柔道、空手、少林寺流、少林寺流、少林寺流)
 - (4) 習いごと(音楽、絵画、ダンス、剣道、柔道、空手、少林寺流、少林寺流、少林寺流)
 - (5) その他()

5 今回の時間を、 前から楽しみに していましたか。

- () どの程度か○を囲んでください。
- (1) 楽しみにしていません
 - (2) 楽しみにしていません
 - (3) 楽しみにしていません

6 今回の時間に 参加してみても うんざりしたか。



- () どの程度か○を囲んでください。
- (1) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)
 - (2) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)
 - (3) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)

うんざりした理由を教えてください。

7 1)のような時間を、 これからもまた 受けてみたいと 思いますか。

- () どの程度か○を囲んでください。
- (1) 受けてみたいです
 - (2) 受けてみたいです
 - (3) 受けてみたいです

うんざりした理由を教えてください。

8 1)のちがな時間を受けてみて、 うんざりに感じましたか。

- () どの程度か○を囲んでください。
- (1) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)
 - (2) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)
 - (3) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)
 - (4) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)
 - (5) 参加した(楽しかった) 参加しなかった(うんざりした) 参加しなかった(うんざりした)



Oshiete
anata-no-koto

10

このような時間が
またあると、
音楽、劇、ダンス、
絵などについて
どのように感じると
思いますが。

- （1）「おもしろい。音楽、舞、ダンス、絵など、いろいろな活動が楽しめると思う。」
- （2）「いろいろな活動があるから、楽しんでいると思う。」
- （3）「おもしろい。音楽、舞、ダンス、絵など、いろいろな活動が楽しめると思う。」



9

このような時間がまたあると、
どのように感じますか。

- （1）「おもしろい。音楽、舞、ダンス、絵など、いろいろな活動が楽しめると思う。」
- （2）「おもしろい。音楽、舞、ダンス、絵など、いろいろな活動が楽しめると思う。」
- （3）「おもしろい。音楽、舞、ダンス、絵など、いろいろな活動が楽しめると思う。」
- （4）「おもしろい。音楽、舞、ダンス、絵など、いろいろな活動が楽しめると思う。」
- （5）「おもしろい。音楽、舞、ダンス、絵など、いろいろな活動が楽しめると思う。」

市民会館やホール、
劇場、美術館などで、
みたり、きいたり、
参加したことがあるものは、
（ ）のなかの番号を
○で囲んでください。

- （1）コンサートやライブの観覧
- （2）音楽の演奏や歌の披露
- （3）劇やダンスの観覧
- （4）絵や写真の鑑賞
- （5）美術館や博物館の見学
- （6）お祭りやイベントの参加
- （7）ボランティア活動の参加
- （8）お祭りやイベントの参加
- （9）お祭りやイベントの参加

11

12

今回の時間で
感じたことや、
思い出すことがあれば、
自由に書いてください。

13

市民会館やホール、
劇場、美術館といった場所について、
「こんなところ」と感じたら、
感じていたことがあれば、
自由に書いてください。

協力してくれて、ありがとうございます。

平成 25 年度公共ホール演劇ネットワーク事業報告書

編集・発行／財団法人地域創造

発行日／平成 26 年 3 月